

I 利用者、市民の視点から求められる「次世代の河川管理」の姿

河川情報のあり方

- ・「いつでも、どこでも、誰でも」河川情報を入手できるようになってほしい。
- ・緊急時については**人的ネットワーク**を通じて情報が届けてもらいたい。

→ ユビキタス

- ・提供される情報は、**利用者や市民にとって分かりやすい表現**となっており、一般的な情報ではなく、利用者等の属性や置かれている状況に応じてカスタマイズしてほしい。

→ カスタマイズ

- ・単に**情報を入手するだけではなく、情報を発信**し、その情報が関係者間で共有され、その情報が公的に役に立っているとの実感を持ちたい。

→ 双方向性

- ・国や都道府県といった河川の管理区分にかかわらず、**あらゆる河川情報がデータベース化**されており、シームレスに情報を入手し、入手した情報を自由に活用できるようにしてほしい。

→ 総合化

河川管理のあり方

- ・身近な河川の管理者がだれであっても、**ICT等を駆使して**効率的で質の高い**維持管理**を実現してほしい。

→ 安心が実感できる河川管理

- ・川を訪れた人が、安心して快適に川で活動できるようにしてほしい。

→ 安心・快適な河川利用

- ・川に関心のある人や団体が、やりがいをもって**日常的に河川管理に参画**できるような仕組みをつくってほしい。

→ 河川管理者との協働

その他

- ・災害時に助けにきてくれたり、情報を伝達してくれるような**人的ネットワーク**を整備してほしい。

II 「次世代の河川管理」を実現するための取り組みの方向性

河川情報のあり方

(1) 利用者・市民が求める情報の伝えられ方(=「ユビキタス」)

緊急時 <利用者・市民へのPUSH型情報>

○テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、CCTV等あらゆる ツールから提供

○緊迫した状況では**人的ネットワークからの提供**

○情報の**受け手の属性に応じた**、どのように行動すればよいか分かる**かみ砕かれた情報**が複数の機関からタイムリーに提供

平常時 <利用者・市民からのPULL型情報、双方向型情報>

○テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、CCTV等あらゆるツールから提供

○欲しい情報が欲しいときに入手できるような提供

(2) 利用者・市民が求める情報(=「カスタマイズ」)

緊急時

○個々の地域の危険度が実感でき、迅速かつ確実な避難につながる情報

- ・河川や堤防等の縦断的な実況の情報
- ・居住地等の浸水情報
- ・土砂災害の発生情報や発生危険度の情報
- ・(市町村による)住民がとるべき避難行動の情報
- ・(市町村による)安全区域の情報 等

平常時

○警戒避難を含む、水害・土砂災害に関する正しい知識の習得のための情報

- ・緊急時に的確な行動を行うための情報
- ・河川や堤防の整備の現状、危険箇所に関する情報
- ・河川の氾濫域の有するリスクについての情報(浸水区域、浸水深、浸水時の流速等)
- ・**情報の限界**(防災情報(ハザードマップ等)がどのような前提で、どのようなシナリオに基づき作成されたものであるか、等)に関する情報
- ・住まい方、土地利用等に関わる平常時からの備えのための情報
- ・川の水位が上昇すると、何が起きるのか、どのような危険が生じるのか、科学的に理解するための情報 等

○川に関心のある人や、川を利用したいと考えている人が満足できるような双方向型の情報

- ・**住民を河川管理、防災にインボルブ**するための川を理解し川に親しむための双方向型の情報

○川を訪れる人が、安心して快適に川で活動できるような情報

- ・利用者の居場所に応じた雨量・水位情報、安全・安心情報、環境情報、流域情報等

(3) 利用者・市民が求める情報システム(=「双方向性」)

○河川管理者から提供される情報が入手できると同時に、利用者・市民から情報発信ができ、発信した情報が共有されるような双方向型のシステム

○情報セキュリティが確保され、プライバシーが保護された安心して利用できるシステム

○河川からの氾濫や水質事故を発見した時に通報すれば、河川管理者等が迅速に現場に急行するような**通報システム**

(4) 利用者・市民が求める情報コンテンツ(=「総合化」)

○**流域全体で**計画的かつ適切に観測され、適切にメンテナンスされた**データベース**により提供される情報

○管理者の区分に関わらず一元的なルールに基づき提供される情報

河川管理のあり方

(1) 安心が実感できる効率的で高度な河川管理

緊急時

- ・洪水、高潮、津波等の際に**確実にポンプ場、水門、樋門等が機能**する
- ・堤防や水位の状態が**縦断的にモニタリング**されており、どの箇所が危険であるのかが**リアルタイムで確実に把握**されている
- ・今後の**水位予測や氾濫予測が精度良く**行われ、安全であるのか危険であるのかに関しての見通しが立つ

平常時

- ・堤防、ポンプ場、水門等の施設が**適切に維持管理**されている
- ・河川での迷惑行為やゴミの不法投棄が行われない
- ・良好な河川環境が維持されている

(2) 安心・快適な河川利用

- ・川を訪れたすべての人が安心して快適に川で活動できるような環境整備(ソフト、ハード)がなされている

(3) 河川管理者との協働

- ・川に関心のある人や団体が、やりがいをもって河川管理に参画できるような平常時からの仕組みが構築されている